

日 本 家 政 学 会
被 服 構 成 学 部 会 誌

第 46 号

令和 7 年 3 月

目 次

ごあいさつ	1
令和6年度 被服構成学協会 総会	2
令和6年度 被服構成学協会 公開夏期セミナー	3
夏期セミナーに参加して	4
「アパレルにおけるSDGsの取り組み ーダーニングの体験とアップサイクルの実例ー」	
令和6年度 被服構成学協会 公開研究例会	5
若手研究者研究紹介	6
第24回 全国中学生創造ものづくり教育フェア報告	8
令和6年度 研究動向（博士・修士論文テーマ，科学研究費補助金研究課題）	9
会務報告	10
夏期セミナー 収支報告書	12
令和5年度 被服構成学協会 決算書	13
貸借対照表・監査報告書	14
令和6年度 被服構成学協会 収支予算書	15
お知らせ	16
被服構成学協会 規約	17
被服構成学協会 申し合わせ	19
令和6・7年度役員	20
被服構成学協会入会申込書および変更届，退会届	21

ごあいさつ

一般社団法人 日本家政学会被服構成学部会

部会長 石垣 理子（昭和女子大学）

大学では後期の授業も終わり、学生たちが羽を伸ばしてあちらこちらへ散らばっていくのと対照的に、先生方は成績査定等のまとめのお仕事で多忙な時期と存じます。

今年度は例年に増して気候現象による影響が感じられた年でした。夏の高温は、1898年の統計開始以来最も気温が高くなり、全国で猛暑日が続きました。秋に入っても平均気温が平年より高くなり、秋雨シーズンが秋の後半にずれ込むなど、季節の進みに影響を及ぼし、一方で冬季には日本海側を中心に大変な大雪に見舞われています。人々の生活は、コロナの5類化への移行を機に、人の流れが復活したことは喜ばしいものの、年末からここまでの間ではインフルエンザやコロナが流行し、なかなか落ち着いた日常が戻らないと感じるこの頃です。

さて、そのような中でも2024年度も無事部会の活動をまとめる時期を迎えられましたことを、心より感謝申し上げます。皆様のご支援とご協力のおかげで、多くの事業を成功させることができました。今年度を振り返ると、特に印象深いのは、公開夏期セミナー「アパレルにおけるSDGsの取り組みーダーニングの体験とアップサイクルの実例ー」です。野口光氏によるダーニングの手法のレクチャー、細川拓氏と吉村真由氏によるアップサイクルの講演は、多くの参加者に新たな視点を提供し、大変有意義な時間となりました。実習では、参加者が実際にダーニングを体験し、アップサイクルの可能性について身近にかつ深く考える機会を得ました。ダーニングは新品同様に仕上げるのではなく、その衣類や着る方に馴染む色や糸で繕う手法であり、手芸に慣れていない方でも楽しんで取り組めるもので、教育の場にも導入しやすいコンテンツであったと思います。

また、その他の活動として、例年に引き続き全国中学生創造ものづくり教育フェアへの協力として、2月1日には山梨県笛吹市の石和中学校を会場とした「アイデアバッグコンクール」の審査を行いました。生徒たちはサステナブルに対する意識と創造力で日常を豊かにする楽しみを見つけており、このような活動を通じて、次世代のものづくりに対する情熱を育むことができるのは、部会として大変意義深いことです。

そして、今年度の残っている活動として、3月には研究例会「アパレルにおけるSDGsの取り組みーデニム製造現場の事例ー」を開催予定です。SDGsを取り入れたデニムの生産を続けるカイハラ株式会社の工場見学とご講演、関連企業である株式会社チクマの浅野様による商品の企画製造とSDGsの取り組みについての講演を予定しています。また、広島県の「福山デニム」に触れるため、「FUKUYAMA MONO SHOP」の自由見学も予定しています。この研究例会は、SDGsに関する地域や企業の活動を知る貴重な機会となることでしょう。

次年度には、例年の夏期セミナーと研究例会を部会員以外の方にも広く呼び掛ける公開イベントとして企画する予定にしております。さらに、新たに予定する活動として、全国家庭科教育協会への協力である衣生活の夏期研修会の企画運営があります。協会からの依頼に対し、部会の社会貢献として引き受けることになりました。夏期研修会では、家庭科教員の先生方に向けた実践的な講習を提供し、被服構成学の知識や技術を広めるとともに、次世代の育成に貢献できればと考えております。

次年度も、皆様のご期待に応えられるような活動を運営委員の皆様と協力して展開していく所存です。引き続き、温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次年度もよろしくお願いいたします。

令和 6 年度 被服構成学部会 総会

日時：2024年5月25日(土) 10:35 ～ 11:05

場所：相山女学園大学

令和 6 年度被服構成学部会総会は、村上かおり副部会長の司会により下記の通り進行した。

総会次第

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1. 開 会 の 辞 | 薩本 弥生 |
| 2. 部会長挨拶 | 石垣 理子 |
| 3. 議 長 選 出 | 滝澤 愛 |
| 4. 議 事 | |
| (1) 令和 5 年度事業報告 | 大塚 有里 |
| (2) 令和 5 年度会計報告 | |
| ① 令和 5 年度収支決算報告 | 工藤 寧子 |
| ② 令和 5 年度夏期セミナー会計 | 工藤 寧子 |
| ③ 令和 5 年度貸借対照表 | 工藤 寧子 |
| (3) 令和 5 年度会計監査報告 | 森下 あおい |
| (4) 令和 6 年度事業計画 (案) | 大塚 有里 |
| (5) 令和 6 年度夏期セミナー (案) | 角田 千枝 |
| (6) 令和 6 年度研究例会 (案) | 角田 千枝 |
| (7) 令和 6 年度予算 (案) | 工藤 寧子 |
| (8) 名誉会員について | 石垣 理子 |
| 5. 議 長 解 任 | |
| 6. 報 告 事 項 | |
| (1) 部会員数について | 大塚 有里 |
| (2) その他 | |
| 7. 閉 会 の 辞 | 十一 玲子 |

上記の議事について審議し, 承認された。

令和 6 年度 被服構成学部会 公開夏期セミナー

テーマ：「アパレルにおける SDGs の取り組み ―ダーニングの体験とアップサイクルの実例―」

日程：2024 年 8 月 29 日（木）（zoom によるオンライン開催）

プログラム

8：40～	Zoom より入室可能
[1 部]	
9：00～9：10	開会のご挨拶および第 1 部講師ご紹介
9：10～11：10	＜実習＞ 「ダーニングから見える世界」 テキスタイルデザイナー 野口 光 氏
11：10～11：15	1 部 まとめ
11：15～12：10	昼休憩（実習が終わらなかった方のみ 30 分程度実習を延長）
[2 部]	
12：10～12：15	2 部 講師ご紹介
12：15～13：35	＜講演＞ 「New Make における社会課題解決 × ビジネスの可能性について」 New Make CEO 細川 拓 氏 New Make ディレクター 吉村(大和) 真由 氏
13：35～13：45	質疑応答
13：45～13：50	閉会のご挨拶

夏期セミナーに参加して

「アップサイクルにおけるSDGsの取り組みーダーニングの体験とアップサイクルの実例ー」

和洋女子大学 山本 高美

実際の教育現場でSDGsを取り入れやすくなることを目指した実習と講演の開催であった。実習は、野口光氏が考えるダーニング(手繕い)から見える様々な社会的側面のお話と、ダーニングの手法のレクチャーであった。ダーニングは新品同様に仕上げるのではなく、その衣類や着る方に馴染む色や糸で繕う。テクニックの多くは基礎的なものの応用ばかりの為、普段手芸に慣れ親しんでいない方から、手芸上級者まで楽しんで取り掛かれました。図1は野口氏による実習の様子、図2はダーニングを実際に行っている様子である。

参加者の感想は、「リペアする事と手作りが合体した感覚ではまってしまった」、「刺し方に加え、注意点と融通を利かせられる点等を伺うことができ、今後の授業等への取り組みに役立つ内容であった」、「実演をされる時、別のカメラで手元がわかり易くて良かった」、「お直しがカッコいいと思われることで、SDGsになるという視点も納得できた」という内容で、多くの参加者が実習を行っているようであった。

講演は、アップサイクルのためのワークスペースNewMakeを運営されている細川拓氏から、施設誕生の背景やビジネスモデルについて、吉村真由氏からはそこで生み出された作品やプロジェクト、また施設についてのお話を伺いました。アップサイクルがビジネスとして成立するような新しい仕組みを提案されていた。

参加者の感想は、「とても興味深いご講義でした。どうしても環境汚染や労働問題と衣生活を結びつけると、『無駄に買わない、しっかり考えて買おう』と指導してしまいがちですが、ファッションを楽しみながらアップサイクルのように生活を楽しみ自己表現をする視点もあっていいと感じた」、「私は来年から家庭科の教員になる予定である。ただ言葉で訴えるだけでなく、今回学んだことを実際に生徒の生活と結びつけて生徒の生きる力にさせたいと強く思った。」、「衣服を廃棄せずに活用するアイデアの一部を理解できたように思う」という内容であり、共感された方が多くいた。

今回もオンライン開催により、全国各地より被服、家庭科教育に携わる先生方、企業の方、学生など、計60名(日本家政学会会員50名、一般2名、学生8名)の参加を得て盛会裏に終了した。



図1. 野口氏による実習の様子

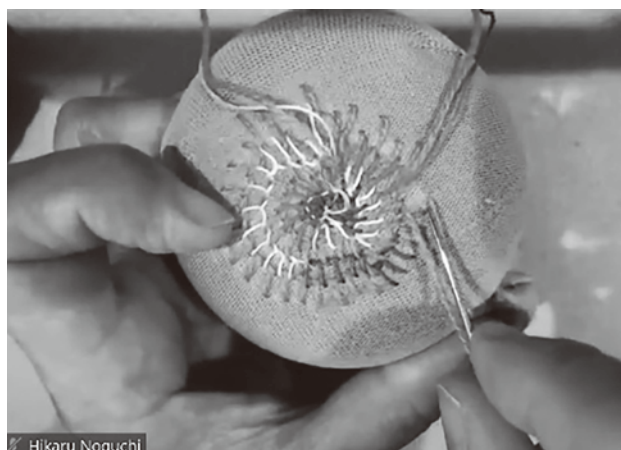


図2. ダーニングを実際に行っている様子

令和6年度（一社）日本家政学会被服構成学部会 研究例会

テーマ：「アパレルにおけるSDGsの取り組み ―デニム製造現場の事例―」

日程：2025年3月18日（火）

会場：カイハラ株式会社 三和工場（〒720-1525 広島県神石郡神石高原町上 1333-1）

概要：各企業でSDGsの取り組みが実践されている。今回は、SDGsを取り入れながら長きにわたりデニムの生産をしているカイハラ株式会社の生産現場の工場見学とご講演である。また、カイハラ株式会社が生産されたデニムを使用した商品を企画製造している関連企業である株式会社チクマの浅野様にも商品の企画製造とSDGsの取り組みについてご講演いただく。その他、広島県の「福山デニム」に触れて頂くための「FUKUYAMA MONO SHOP」の自由見学。

プログラム（予定）

10:00～ 11:30	天満屋 福山店 「FUKUYAMA MONO SHOP」自由見学
11:30～12:50	福山駅集合・出発（各自昼食後）
12:50頃	移動 カイハラ株式会社 三和工場到着
13:00～13:05	開会のあいさつ・ご講演者の紹介・スケジュールの説明
13:05～13:15	工場見学前のご説明（見学グループ分け等）
13:15～14:30	工場内見学
14:30～14:40	休憩
14:40～15:40	株式会社チクマ 東京支店 浅野様 ご講演『質疑応答含む』
15:40～16:40	カイハラ株式会社様 ご講演『質疑応答含む』
16:40～16:45	閉会のあいさつ
16:50～18:20	移動
18:20頃	福山駅到着・解散
18:20～19:00	天満屋 福山店 「FUKUYAMA MONO SHOP」自由見学

*開催内容は次号でご報告いたします。

1. 研究の背景

デジタル技術を活用した衣服制作及び、ファッション表現の探求をテーマとした研究に取り組んでいる。2020年頃からゲームやメタバース上のアバターファッションへ現実のファッションブランドが次々に参入するなど、従来の被服造形という形に捉われないファッション表現の在り方が誕生し始めている。特にデジタルネイティブ世代から若い世代にとってのファッションは、着る物としてだけではなくコンテンツの一つとして捉えられ始めており、ファッションという領域が拡張していることが見て取れる。本稿ではファッションの在り方が変容しつつある中で、新たな服飾の造形性を探求すべく、デジタル技術を活用した衣装制作やそれらの表現方法について検討した研究を紹介する。

2. 3DCGを活用した衣服制作について¹⁾

本研究では、3Dスカルプトソフト「ZBrush」で制作したワンピースの3Dデータを「CLO」でパターンにし、実際に衣服を制作することで、ZBrushのモデリングデータから実物の衣服を制作した。筆者が担当した衣服の縫製および装飾は、デザイン画ではなく3Dモデルを観察しながら行った。一般的に衣服制作は平面のデザイン画から立体へと起こしていく。しかし本研究では3Dのデザインを衣服に制作したため、様々な角度からデザインを観察することが可能となり、デザインに忠実な衣服を制作することができた。また、制作した衣服は目視官能検査を行い、3Dモデルと極めて近似性の高いものであることが証明できた。このような3DCGを用いたファッションデザインは、今後衣服制作の手法の一つになりうる可能性が示唆された。

3. ARを活用したファッション展示の検討について

本研究では、Geospatial Creatorを用いたARファッション展示を行った。Geospatial CreatorとはGoogleのPhotorealistic 3D Tiles APIを使用したものであり、現実の地理座標に対応したARコンテンツを作成するためのツールのことである。このGeospatial CreatorをAR制作プラットフォームのAdobe Aeroに紐付けること



図1. Geospatial Creatorでの配置



図2. AR展示の様子(iPhoneで撮影)

で、インターネットを通して家にいながら世界中の任意の場所にARを作り出すことが可能となる。

本研究では倉敷芸術科学大学オープンキャンパスにて、CLOで制作した3Dモデルの衣服を大学構内に配置することでAR展示を行った(図1, 図2)。このような展示方法は、場所や時間といった物理的な制約にとらわれることなくクリエイターの自由な発想を表現できるものであり、今後のファッション表現の一つとして活用できると考えている。

本研究はファッションの展示方法を探求するため、試験的に行った。そのため、今後は鑑賞者からの意見を基に改良を重ね、本分野において継続的な研究を行っていきたいと考える。

4. ARを活用した子ども向けファッションイラストブックの提案について²⁾

本稿の3. に続き、ファッションの表現方法を探求すべく、ARを用いた子ども向けファッションイラストブックを制作した(図3)。

本研究は幼児や児童期の子どもが楽しみながらファッションに触れることができる、ファッションコンテンツの開発を目的として行ったものである。作品はポップアップ手法で絵が立体的に飛び出す、仕掛け絵本として制作した。子どもが好むギミックとしてデジタルデバイスに着目し、仕掛け絵本にCLOやBlenderで制作した3Dモデルの衣服を連動させることで、よりインタラクティブな要素を持つファッションイラストブックを提案した。



図3. 完成作品

制作した作品は実際に子どもたちに体験してもらう機会を設け、その所感について質問紙調査を行った。調査の結果、本作品は子どもから好評価を得たことがわかった。以上のことから、子どもに向けたファッション表現の一つとして、デジタル技術を用いることは効果的であることを示唆した。

5. 今後の展望

これらの研究を踏まえ、現在は3Dモデリングでのステージ衣装制作および、3Dデータの活用によるファッション表現の探求を進めている。またそれらの手法を体系化し、教育現場において実践していくことを目指したいと考えている。

本稿を執筆するにあたり、共同研究者である文化学園大学の高村是州教授、株式会社ユカアンドアルファの笛木愛美様、倉敷芸術科学大学の中川浩一教授に、深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 高村是州・木村知世・笛木愛美, 3Dで発想するファッションデザイン, デザイン学研究作品集, 26巻, pp2-7, 2021年
- 2) 木村知世・中川浩一, ARを活用した子ども向けファッションイラストブックの提案, 服飾学研究(作品編)Vol. 7, No. 1, pp. 1-10, 2024年

第24回 全国中学生創造ものづくり教育フェア報告

昭和女子大学 石垣 理子

全国中学生創造ものづくり教育フェアは、「知識や道具を駆使していろいろな条件のもとに自分なりの課題や目標を設定し、思考力・判断力・表現力を働かせて最適解を見つけ出そうと、失敗しても繰り返し粘り強く取り組み、多様な体験と切磋琢磨の機会を通して、進んで生活を工夫し創造する資質や能力をはぐくむこと」をねらいとし、ものづくり教育の充実と発展、社会への理解・啓発を図ることを趣旨として開催されている。全日本中学校技術・家庭科研究会が主催するもので、アイデアバッグや木工チャレンジ、授業や課外を含めた技術・家庭科の生徒作品コンクールなど全6部門からなっている。被服構成学部会は協賛金を提供し、「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクールの審査委員長を務め、文部科学大臣省をはじめとする9つの賞の決定にかかわっている。この他、審査には関与しないが、生徒作品コンクールでは2件の奨励賞を贈呈している。かつては生徒たちが一堂に会してその場で作品作りの腕を競う形式をとっていたが、コロナ禍以降、一部のコンクールを除きオンラインでの実施が続いている。

今年度のアイデアバッグコンクールは2月1日に山梨県笛吹市立石和中学校の多目的室を本部として開催され、全国から地方予選を勝ち上がった9名の生徒たちはリモート参加でプレゼンテーションを行った。審査員4名は事前のレポート審査に加え、当日は会場に届けられている作品の実物を確認しながら、エントリーの競技者たちと質疑応答を行った。競技のルールとして、課題はバッグとすること、使用する布には本体の全部または一部に家庭にある自分または家族の衣服を用いること、衣服の一部をそのままの形で一つ以上活用すること、バッグの口を閉じられるようにして中身が出ない工夫をすること、まつり縫いやスナップを取り入れることなどがあり、3時間程度で製作できる作品であることとされている。レポートには、「テーマ」「構想」「自分や家族の生活を豊かにする視点」「私にとってのものづくりの視点」と「衣服の再利用の工夫(どの部分をどのように活用するか)」とその理由について示す。審査の項目は、レポート、縫製、発表会、衣服の再利用の4つからなり、縫製では、縫い代の幅と始末の仕方、部位に応じた縫い目の工夫(ミシン縫い)、まつり縫い、スナップつけ、および完成度という5つの観点での採点を行う。今年度も様々な工夫とアイデアが盛り込まれた意欲作が並んだ。

審査の結果、1位の文部科学大臣賞には伊勢苺香さんの「家族のための安心防水・防災リュック」を決定した。実際の市販のバッグの形態を丹念にリサーチしたうえで、小学生の時に愛用していたウインドブレーカーのジャケットとズボンのすべてを余すことなく活用し、必要なものがしっかりと収まる災害時の避難リュックを完成度高く仕上げていくこと、家族のだれもが持ってもよいように仕上がったバッグについて体格の異なる家族たちで使い心地の良さまで確認している入念さなどが評価された。8位となる被服構成学部部会長賞は玉城陽菜さんの「マルチに使えるかばん」に贈られた。祖母のロングスカートの形をうまく活用し、最小限の手間で非常に軽やかなバッグを完成させている。

なお、生徒作品コンクールにおける被服構成学部会奨励賞は、鬼澤玲咲さんの「ママの振袖をリメイクワンピース」と志摩和奏さんの「チュニック手提げバック」に贈られた。



文部科学大臣賞



被服構成学部部会長賞



被服構成学部会奨励賞

令和6年度 研究動向（博士・修士論文テーマ、科学研究費補助金研究課題）

「2024年度修士論文テーマ」

「高等学校家庭科における衣生活文化を扱う学習の現状と課題に関する研究」

坂田 唯(主指導教員:村上 かおり, 副指導教員:鈴木 明子)広島大学大学院 人間社会科学研究科 博士課程前期修了

「令和6(2024)年度 科学研究費補助金 研究課題」

基盤研究(B)

「人間工学的な製品設計のための児童・生徒の身体寸法・形態と成長のデータベース構築」

2023年度～2028年度, 研究代表者:京都女子大学 渡邊 敬子

基盤研究(C)

「個人のデザインアイデアをファッション市場に活かすデジタルドローイングの基礎研究」

2021年度～2024年度, 研究代表者:滋賀県立大学 森下 あおい

「社会的弱者の安全に役立つ視認性に優れた新規の蓄光布と蓄光衣服の創製」

2022年度～2026年度, 研究代表者:甲南女子大学 小野寺 美和

「多様化する着用者に向けたICT活用による個対応衣服設計の検証—着心地と機能性の検討」

2024年度～2026年度, 研究代表者:昭和女子大学 石垣 理子

「熱中症予防支援システム構築のための人—着衣—環境系の評価」

2023年度～2025年度, 研究代表者:横浜国立大学 薩本 弥生

「シエラレオネの職業訓練生の技能教育教材開発を活用した衣生活教育力育成の構想」

2021年度～2024年度, 研究代表者:広島大学 村上 かおり

「乳がん患者の衣服選択を支援するスマートミラー開発のための基礎研究」

2021年度～2024年度, 研究代表者:文教大学 土肥 麻佐子

(注:継続研究と部会員の皆様への呼びかけに対して, お申し出頂いた分のみ掲載いたしました.)

会 務 報 告

1. 令和 6 年度会務報告

1) 事業報告

① 総 会

日時: 令和6年5月25日(土) 10:35～11:05

会場: 相山女学園大学

② 令和6年度夏期セミナー

「アパレルにおけるSDGsの取り組み—ダーニングの体験とアップサイクルの実例—」

日時: 令和6年8月29日(木)

開催方法: オンライン形式

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援と

『豊かな生活を創るアイデアバッグ』コンクール審査

日時: 令和7年2月1日(土)

場所: 笛吹市立石和中学校

開催方法: 全国より選抜された実物作品の審査オンラインによるプレゼンテーションの審査

結果発表(全日本中学校技術・家庭科研究会webで公開、表彰式はなし)

④ 研究例会

「アパレルにおけるSDGsの取り組み—デニム製造現場の事例—」

日時: 令和7年3月18日(火)

場所: カイハラ株式会社 三和工場

(3) 部会誌のオンライン化について

(4) その他

報告事項

(1) 部会員数の報告

(2) その他

② 第2回運営委員会

日時: 令和6年8月29日(金)

開催方法: オンライン形式

議題

(1) 夏期セミナーについての振り返り

(2) 研究例会の企画について

(3) 会計のインボイス対応と名簿の整理について

(4) 部会誌のオンライン化について

③ 第3回運営委員会

日時: 令和7年1月25日(土)

開催方法: オンライン形式

議題

(1) 研究例会について

(2) 第24回全国中学生創造ものづくり教育フェアについて

(3) 全国家庭科教育協会(ZKK)への協力について

(4) 日本家政学会2025年度活動助成の応募について

(5) 永年会員の家政学会退会後の部会費について

(6) 令和7年度部会総会について

報告

(1) その他

2) 庶務報告

① 第1回運営委員会

日時: 令和5年4月22日(土)

開催方法: オンライン形式

議題

(1) 令和6年度の総会について

(2) 部会誌第46号編集(案)について

2. 令和7年度事業計画（案）

④ 第4回運営委員会

日時:令和7年3月21日(金)

開催方法:オンライン形式

議題

- (1) 研究例会の振り返り
- (2) 全国家庭科教育協会(ZKK)への協力について
- (3) 永年会員の家政学会退会後の部会費について
- (4) 令和7年度部会総会について

報告事項

- (1) 部会員数について

3) 会計報告(次頁以降参照)

① 総会

日時:令和7年5月予定

開催方法:オンライン形式

② 公開夏期セミナー

テーマ:福井県の桂由美ミュージアム、アル
ファブランカ工場見学および講演会

場所:福井県三方上中郡若狭町

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援

日時:令和8年1月下旬

場所:未定

④ 公開研究例会

テーマ:VRによるファッションの拡張の可能性

開催方法:オンライン形式

⑤ 部会誌47号の発行

⑥ ホームページの維持管理

⑦ その他

2024年度 被服構成学部会 夏期セミナー 収支報告書

2025年2月6日

◆夏期セミナー 収入の部

費目	予算	決算	差異	備考
参加費	0	0		
学会活動助成金	0	0		
部会会計より補助費	0	94,000	▲94,000	
合 計	0	94,000	▲94,000	

支出の部

費目	予算	決算	差異	備考
1 会場費				
2 講師謝礼	90,000	94,000		講演50,000×1名、44,000×1
3 消耗品				
4 通信運搬費				
5 印刷費				
6 要旨集作成費(印刷代)				
7 旅費交通費(実行委員メンバー)				
8 会議費				
9 支払負担金				
10 臨時雇賃金				
11 予備費				
12バス賃借料				
合 計	90,000	94,000	▲4,000	
差引残高				0

◆徴収税

内 訳	金 額	備 考
講師謝礼徴収税	5,685	5,685×1
講師交通費徴収税	0	
合 計	5,685	

日本家政学会本部会計に納入いたしました。
※実際は本部から上記金額を引いた金額を受領

◆残金

2024年度 夏期セミナー残金 0 円

2025年 2月 5日

会計 井口彰子 鈴木由子 工藤寧子

令和5年度 被服構成学部会 決算書
(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

2024/4/5

(単位：円)

科 目	注 意	予算	決算	差異	備考
一般正味財産増減の部					
1.経常増減の部					
(1) 経常収益					
①基本財産運用益	(本部のみ)				
特定資産運用益	大会基金となっている定期預金の利息			0	
入金金				0	
年会費		300,000	279,000	21,000	正67、学1、永1、通正1、通学1
会誌購読料			0	0	
大会等参加費		0	791,600	▲ 791,600	第67回・第68回(2021・22)、第69回(23)、第70回(24)、第71回(25)、第72回(26)、第73回(27)、第74回(28)、第75回(29)、第76回(30)、第77回(31)、第78回(32)、第79回(33)、第80回(34)、第81回(35)、第82回(36)、第83回(37)、第84回(38)、第85回(39)、第86回(40)、第87回(41)、第88回(42)、第89回(43)、第90回(44)、第91回(45)、第92回(46)、第93回(47)、第94回(48)、第95回(49)、第96回(50)、第97回(51)、第98回(52)、第99回(53)、第100回(54)
広告料					
刊行物売上					
著者負担金					
補助金	(名称と交付者を備考欄に記載願います。)				
一般寄付金	活動全般に使ってよい寄付金	0	40,000	▲ 40,000	大塚美智子先生よりデーターバック代寄付として
特別寄付金	使途を限定した寄付金			0	
雑収入	普通預金利息	10	12	▲ 2	
②本部からの支部費	(支部のみ、選挙の為の通信費も含む)				
本部からの支部活動活性化サポート費	(支部のみ)				
本部からの活動助成費	活動助成金全額(税金も含む)	60,000	33,411	26,589	研究例会講師料(部会費)@11,137円×3
経常収益計		360,010	1,144,023	▲ 784,013	
(2) 経常費用					
①事業費		363,000	973,152	▲ 610,152	
大会会場使用料				0	
大会講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)			0	
大会旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い			0	
大会消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む			0	
大会印刷費				0	
大会研究発表要旨集作成費				0	
大会通信運搬費				0	
大会臨時雇賃金				0	
総会費				0	
セミナー・講演会等会場使用料		5,000	0	5,000	
セミナー・講演会等講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)	100,000	35,581	64,419	石見東海館手土産2,170円、研究例会@11,137円×3
セミナー・講演会等旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い	50,000	811,090	▲ 761,090	第67回・第68回(2021・22)、第69回(23)、第70回(24)、第71回(25)、第72回(26)、第73回(27)、第74回(28)、第75回(29)、第76回(30)、第77回(31)、第78回(32)、第79回(33)、第80回(34)、第81回(35)、第82回(36)、第83回(37)、第84回(38)、第85回(39)、第86回(40)、第87回(41)、第88回(42)、第89回(43)、第90回(44)、第91回(45)、第92回(46)、第93回(47)、第94回(48)、第95回(49)、第96回(50)、第97回(51)、第98回(52)、第99回(53)、第100回(54)
セミナー・講演会等消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む	5,000	0	5,000	夏期セミナーの諸経費(224,735円+5,265円+15,000円)
セミナー・講演会等印刷費		5,000	0	5,000	
セミナー・講演会等研究発表要旨集作成費		5,000	0	5,000	
セミナー・講演会等通信運搬費		5,000	1,040	3,960	レターバックプラス@520円×2
セミナー・講演会等臨時雇賃金		5,000	0	5,000	
学会誌等関連印刷費		90,000	92,097	▲ 2,097	部会誌印刷・封筒・発送費
学会誌等関連通信費				0	
学会誌等関連原稿料・校閲料等		0	5,568	▲ 5,568	田中あゆみ先生寄稿料
学会誌等関連電子ジャーナル化費用				0	
研究補助費				0	
表彰費	奨励賞等	20,000	671	19,329	ものづくりフェア賞状用筒
関連学会等会費		20,000	10,000	10,000	ものづくりフェア協賛費
会議費	会議用のお菓子、お茶等	5,000	0	5,000	
広報費	ホームページ等	20,000	13,750	6,250	HP更新費
旅費交通費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する旅費交通費	20,000	0	20,000	
事務委託費				0	
支払負担金	振込手数料	3,000	3,355	▲ 355	振込手数料(2021・24)・2022・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54
雑費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する雑費	5,000	0	5,000	
②管理費		23,000	9,496	13,504	
給料手当				0	
福利厚生費				0	
旅費交通費	(本部のみ)			0	
通信運搬費	大会、セミナー・講演会関連以外の通信運搬費	15,000	9,496	5,504	個人用携帯用無線機(2021・22)・2023・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54
備品費				0	
消耗品費	大会、セミナー・講演会関連以外の消耗品	3,000	0	3,000	
光熱水料費				0	
雑費	(本部のみ)			0	
租税公課	(法人税、消費税等本部のみ計上)			0	
地代	(本部のみ)			0	
印刷費	大会、セミナー・講演会関連以外の印刷費	5,000	0	5,000	
修繕費				0	
減価償却費	(本部のみ)			0	
リース料				0	
事務所管理費				0	
退職給与引当金繰入額	(本部のみ)			0	
③支部費					
支部活動活性化サポート費	(本部の支出を計上する欄)				
活動助成費					
経常費用計		386,000	982,648	▲ 596,648	
当期経常増減額		▲ 25,990	161,375	▲ 187,365	
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益	(例えば不動産を売る等、通常の活動外での収入、支出なのでば該当なし)				
(2) 経常外費用					
当期経常外増減額					
当期一般正味財産増減額		▲ 25,990	161,375	▲ 187,365	
一般正味財産期首残高	(2022年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,543,735	2,543,735	0	
一般正味財産期末残高	(2023年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,517,745	2,705,110	▲ 187,365	

貸借対照表・監査報告書

2024/4/5

(2024年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
手許現金		0	0
普通預金(三菱UFJ銀行国分寺支店)	1,526,276	1,496,264	30,012
通常預金			0
振替口座(ゆうちょ 00160-2-322300)	1,178,834	1,047,471	131,363
振替口座(ゆうちょ 00160-6-450157)	0	0	0
流動資産合計	2,705,110	2,543,735	161,375
2. 固定資産			
部会大会基金引当預金			
定期預金(三菱東京UFJ銀行国分寺支店)			
通常貯金(ゆうちょ銀行)			
固定資産合計	0	0	0
資産合計	2,705,110	2,543,735	161,375
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払い金			
負債合計	0		
III 正味財産の部			
正味財産			
1. 指定正味財産			
2. 一般正味財産	2,705,110	2,543,735	161,375
負債及び正味財産合計	2,705,110	2,543,735	161,375

監 査 報 告 書

一般社団法人 日本家政学会
会 長 赤塚 朋子 殿

私ども監事は、2023年4月1日から2024年3月31日までの2023年度の部会の重要な会議に出席するほか、事業報告を開き、重要な書類を閲覧し、主要な調査を行い、かつ当該事業年度に係る計算書類について監査を実施した結果、次のとおり報告します。

1. 事業報告は規程に従い、部会の状況を正しく示しているものと認めます。
2. 貸借対照表は2023年度期末現在の財政状態を正しく示していると認めます。
3. 正味財産増減計算書は2023年度の収支の状況を適正に表示していると認めます。
4. 役員の職務遂行に関する不正の行為または定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

2024年 4 月 6 日

一般社団法人 日 本 家 政 学 会
(被 監 査 単 位) 部 会

監事 川端 博子

監事 森下 あおい

令和6年度 被服構成学部会 収支予算書
(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

2024/4/5

(単位：円)

科 目	注 意	2024年度	2023年度	差異	備考
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
①基本財産運用益	(本部のみ)				
特定資産運用益	大会基金となっている定期預金の利息			0	
入会金				0	
年会費		300,000	300,000	0	
会誌購読料				0	
大会等参加費		0	0	0	
広告料				0	
刊行物売上				0	
著者負担金				0	
補助金	(名称と交付者を備考欄に記載願います。)			0	
一般寄付金	活動全般に使ってよい寄付金	0	0	0	
特別寄付金	用途を限定した寄付金			0	
雑収入	普通預金利息	10	10	0	
②本部からの支部費	(支部のみ,選挙の為の通信費も含む)				
本部からの支部活動活性化サポート費	(支部のみ)		0		
本部からの活動助成費	活動助成金全額(税金も含む)		0	0	
経常収益計		300,010	300,010	0	
(2) 経常費用					
①事業費		388,000	363,000	25,000	
大会会場使用料				0	
大会講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)			0	
大会旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い			0	
大会消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む			0	
大会印刷費				0	
大会研究発表要旨集作成費				0	
大会通信運搬費				0	
大会臨時雇賃金				0	
総会費				0	
セミナー・講演会等会場使用料		5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)	120,000	100,000	20,000	
セミナー・講演会等旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い	20,000	50,000	▲ 30,000	
セミナー・講演会等消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む	5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等印刷費		5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等研究発表要旨集作成費		5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等通信運搬費		5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等臨時雇賃金		5,000	5,000	0	
学会誌等関連印刷費		95,000	90,000	5,000	
学会誌等関連通信費				0	
学会誌等関連原稿料・校閲料等				0	
学会誌等関連電子ジャーナル化費用				0	
研究補助費				0	
表彰費	奨励賞等	20,000	20,000	0	
関連学会等会費		20,000	20,000	0	
会議費	会議用のお菓子、お茶等	5,000	5,000	0	
広報費	ホームページ等	50,000	20,000	30,000	
旅費交通費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する旅費交通費	20,000	20,000	0	
事務委託費				0	
支払負担金	振込手数料	3,000	3,000	0	
雑費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する雑費	5,000	5,000	0	
②管理費		23,000	23,000	0	
給料手当				0	
福利厚生費				0	
旅費交通費	(本部のみ)			0	
通信運搬費	大会、セミナー・講演会関連以外の通信運搬費	15,000	15,000	0	
備品費				0	
消耗品費	大会、セミナー・講演会関連以外の消耗品	3,000	3,000	0	
光熱水料費				0	
雑費	(本部のみ)			0	
租税公課	(法人税、消費税等本部のみ計上)			0	
地代	(本部のみ)			0	
印刷費	大会、セミナー・講演会関連以外の印刷費	5,000	5,000	0	
修繕費				0	
減価償却費	(本部のみ)			0	
リース料				0	
事務所管理費				0	
退職給与引当金繰入額	(本部のみ)			0	
③支部費					
支部活動活性化サポート費	(本部の支出を計上する欄)				
活動助成費					
経常費用計		411,000	386,000	25,000	
当期経常増減額		▲ 110,990	▲ 85,990	▲ 25,000	
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益	(例えば不動産を売る等、通常の活動外での収入、支出なのでは該当なし)				
(2) 経常外費用					
当期経常外増減額					
当期一般正味財産増減額		▲ 110,990	▲ 85,990	▲ 25,000	
一般正味財産期首残高	(2023年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,705,110	2,543,735	161,375	
一般正味財産期末残高	(2024年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,594,120	2,457,745	136,375	

お 知 ら せ

1. 部会費について

令和7年度の被服構成学部会費（正会員：4000円、学生会員：2500円、永年会員2000円）は、5月中に下記郵便払込み口座にご送金くださいますよう、お願いいたします。また、過年度未納の方には別紙にてお知らせいたしましたので、併せてご送金ください。

郵便払い込み口座 00160-2-322300 日本家政学会被服構成学部会

なお、会費に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1

東京家政大学家政学部服飾美術学科 鈴木 由子 宛

TEL:03-3961-9304（内1541）

E-mail: ysuzuki@tokyo-kasei.ac.jp

〒036-8530 青森県弘前市清原 1 丁目 1-16

柴田学園大学生生活創生学部 工藤 寧子 宛

TEL:0172-33-2289

E-mail: ya-kudo@shibata.ac.jp

2. 入退会、住所変更等について

お届け、お問合せは、下記にお願いいたします。

〒732-0063 広島県広島市東区牛田東 4-13-1

広島女学院大学人間生活学部 檜崎 久美子 宛

TEL:082-228-0386

E-mail: narazaki@gaines.hju.ac.jp

※ 入会申込書および変更届、退会届の書式は最終ページをご参照ください。

※ なお、退会届につきましては（一社）日本家政学会の退会手続きとは別処理になっていますので、部会への手続きも併せてしていただきますよう、お願いいたします。

3. E-mail アドレスについて

E-mail アドレスの登録にご協力くださり、ありがとうございます。アドレスをお持ちの方で、まだご登録くださっていない方は、令和7年度会費納入の際に、振り込み用紙の通信欄にご記入いただければ幸いです。また、アドレスの変更がある場合には、なるべくすみやかにお知らせくださいますよう、よろしくお願いいたします。

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会規約

- 第1条（名 称） 本会は、一般社団法人日本家政学会被服構成学部会と称する。
- 第2条（目 的） 本会は、会員相互の研究に関する連絡及び協力をはかり、被服構成学に関する教育・研究を促進することを目的とする。
- 第3条（事 業） 本会は、前述の目的を達成するため次の事業を行う。
- 1 総会を開催する。
 - 2 被服構成学に関する研究・討議・講演などを行う。
 - 3 部会誌を発行する。
 - 4 その他の必要な事業を行う。
- 第4条（会 員） 本会の会員は、次のとおりとする。
- 1 正会員 被服構成学及びこれに関係する分野を研究する原則として一般社団法人日本家政学会会員で、本会の目的に賛同して入会した個人。
 - 2 学生会員 本会の目的に賛同して入会した学生。
 - 3 名誉会員 元部会長、または、特に本会の発展に寄与した会員で、70 歳を越えた場合に、運営委員会の議決をもって推薦された者。
 - 4 永年会員 一般社団法人日本家政学会会員の永年会員。
- 第5条（会 費） 会員は年会費を納入する。
- 1 年会費は次のとおりとする。

正会員	4,000 円
学生会員	2,500 円
永年会員	2,000 円
 - 2 名誉会員は会費を納めることを要しない。
- 第6条（入 会） 本会に入会を希望する者は、所定の入会申込書を部会長に提出し、運営委員会の承認を得るものとする。
- 第7条（退 会） 会員が退会しようとするときは、その旨を部会長に届け出るものとする。この場合、既納の会費は返却しない。
また、継続して2年間会費を滞納した場合は、原則として退会したものとみなす。
- 第8条（役 員） 本会に次の役員をおく。
- 部会長 1名
副部会長 若干名
運営委員 若干名
監 事 2名
- 第9条（役員の選任） 役員の選任は、次のとおりとする。
- 1 部会長及び監事は、運営委員会がこれを推薦して、総会で選任する。部会長の選任および解任は、理事会の承認を受けるものとする。
 - 2 副部会長及び運営委員は、部会長がこれを推薦し、会員に報告する。

第 10 条（役員の任期） 1 役員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 役員の再任については、申し合わせを別に定める。

第 11 条（役員の職務） 役員の職務は次のとおりとする。

1 部会長は本会を代表して会務を統轄し、事業計画および予算、事業報告および決算を毎事業年度、理事会に報告する。

2 副部会長は部会長を補佐し、必要な場合には部会長の職務を代行する。

3 運営委員会は本会の業務を運営する。

4 監事は本会の会計監査を行う。

第 12 条（役員の解任） 役員が次の各号の一に該当するときは、解任を運営委員会で動議し、総会で決議する。

1 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。

2 職務上の義務の違反、その他役員たるにふさわしくない行為があると認められたとき。

第 13 条（会 計） 本会の会計は次のとおりとする。

1 経費は会費、その他をもってまかなう。

2 会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月末日に終了する。

第 14 条（規約の改廃） 本規約の改廃は総会において承認を受け、理事会に報告する。

以上

附 則

1 施行に関する内規は別に定めることができる。

2 この会則の施行は昭和 54 年 10 月 8 日からとする。

3 この会則の一部改正の施行は昭和 59 年 8 月 3 日からとする。

4 この会則の一部改正の施行は昭和 63 年 8 月 1 日からとする。

5 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 15 年 8 月 27 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。

6 この規約の施行は平成 15 年 8 月 27 日からとする。

7 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 18 年 8 月 22 日から被服構成学部会規約を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会会則とする。

8 この会則の施行は平成 18 年 8 月 22 日からとする。

9 社団法人日本家政学会部会運営規程および部会運営規程細則に基づき、平成 22 年 5 月 29 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。

10 この規約の一部改正の施行は平成 22 年 5 月 29 日からとする。

11 この規約の一部改正の施行は平成 24 年 5 月 12 日からとする。

12 この規約の一部改正の施行は平成 28 年 3 月 14 日からとする。

13 この規約の一部改正の施行は平成 28 年 5 月 28 日からとする。

14 この規約の一部改正の施行は平成 30 年 2 月 27 日からとする。

15 この規約の一部改正の施行は令和 2 年 3 月 6 日からとする。

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会申し合わせ

- 1 運営委員会 運営委員会は、部会長、副部会長、運営委員、監事で構成し、その中に庶務、会計、企画、広報、編集担当をおく。
- 2 役員の任期 (1) 規約第9条に従って部会長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、継続して3期はつとめられない。
(2) 運営委員の任期はできるだけ2期4年間とし、その交代は半数ずつ交互に行うことが望ましい。期間をあけての再任は、これを妨げない。
- 3 運営委員の選任 運営委員の選任にあたっては、できるだけ部会員が在住する広範な地区から選ぶように配慮する。
- 4 事務局幹事 (1) 必要に応じて事務局幹事をおくことができる。
(2) 事務局幹事は若干名とし、部会長がこれを指名する。
(3) 事務局幹事は役員会に同席することができるが、議決権は持たない。
- 5 事務局 事務局は、原則として部会長のもとにおく。
- 6 申し合わせの改廃 運営委員会の議を経て、総会で承認し、理事会に報告する。

附則

- 1 この申し合わせは、平成15年8月27日から施行する。
- 2 この申し合わせの一部改正施行は、平成18年8月22日からとする。
- 3 この申し合わせの一部改正施行は、平成24年5月12日からとする。

令和6・7年度役員

部会長	石垣 理子	昭和女子大学
副部会長	村上 かおり	広島大学
	薩本 弥生	横浜国立大学
	十一 玲子	神戸女子大学

運営委員

(庶務)	伊藤 海織	金城学院大学
	檜崎 久美子	広島女学院大学
	大塚 有里	東京家政大学

(会計)	鈴木 由子	東京家政大学
	工藤 寧子	柴田学園大学
	井口 彰子	文化学園大学

(企画)	角田 千枝	相模女子大学
	砂長谷 由香	文化学園大学
	渡邊 敬子	京都女子大学

(広報)	高橋 美登里	埼玉大学
	山本 泉	武庫川女子大学

(編集)	伊藤 瑞香	和洋女子大学
	末弘 由佳理	武庫川女子大学
	山本 高美	和洋女子大学

(監事)	森下 あおい	滋賀県立大学
	田中 早苗	東京家政大学

事務局 〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7-57

昭和女子大学 環境デザイン学部

TEL : 03-3411-4364

E-mail : michiko@swu.ac.jp

(一社)日本家政学会 被服構成学部会入会申込書および変更届, 退会届

入会 変更 退会 (いずれかを○で囲む)	申込年月日 年 月 日		受付年月日 年 月 日	
	ローマ字			
	氏名	氏	名	
	西暦 年生		性別	男・女 (どちらかを○で囲む)
家政学会所属支部				
自宅住所	〒 (-)			
	TEL		FAX	
	E-mail			
勤務先・職名 および所在地	勤務先		職名	
	〒 (-)			
	TEL		FAX	
	E-mail			
専門分野	<研究分野> <担当授業科目>			
※最終学歴				
※学位				
部会誌送付先	自宅・勤務先 (どちらかを○で囲む)			

太線枠内は必ず記入してください。E-mailも必ずお書きください。※印は差支えない範囲で結構です。

退会の場合は、今後、連絡する必要がある場合に備えて、連絡がつく自宅か勤務先の情報をご記入ください。

お届けは「お知らせ」ページの宛先まで、添付メールまたは郵送にてご提出ください。

部会費は「お知らせ」ページの口座にご送金ください。

* 個人情報保護には十分に注意をいたします。

なお、書式を被服構成学部会ホームページからダウンロードしてお使いいただくこともできます。

URL: https://www.jshe.jp/bukai_hp/hihukukouseigaku/index.html

編集後記

被服構成学会誌 46 号が届くころは、お花の便りも聞こえることでしょう。

今年度の夏期セミナーは、SDGs の取り組みというタイトルでダーニングの体験などが行われました、実際 SDGs とはどのような取り組みをすればよいのか難しいところではありますが、授業の一環であったり、産学連携で SDGs を組み込んだりと模索をしながら導入しているところではあります。本部会の活動から教育のヒントを頂き、少しでも社会貢献ができればと思っています。

末筆ながら、原稿執筆にご協力頂きました先生方に心より御礼申し上げます。

(伊藤 (瑞))

新型コロナウイルス感染症の分類が「5類」に引き下げられ、間もなく2年の月日が経ちます。

マスクの着用についても自己判断となり、かつてのように皆様のお顔を拝見できるようになりました。2023年度は行事等の復活年となり、膨大なエネルギーを要されたことと存じます。そのおかげをもちまして、2024年度においては、行事の内容に合わせてオンラインと対面をうまく活用して実施され、部会行事が遂行されたように感じております。

末筆になりましたが、お忙しい中、原稿執筆をご快諾下さいました先生方に改めて感謝申し上げます。

(末弘)

令和7年3月31日発行

発行：(一社)日本家政学会 被服構成学会

印刷：株式会社アディス

TEL：078-265-6336

